

13ひろば 編集委員会研修

豪徳寺へ



コロナ禍により編集委員会の研修も自粛していましたが、今回から再開しました。

今回は招き猫ですっかり有名になった『豪徳寺』を訪問しました。近くに住んでいてもなかなか足を運ぶ機会がなかったのですが、久しぶりに訪れて、そのゆったりとした佇(たたず)まいにとても気持ちが安らぎました。

広い境内はきれいに整備され、四季折々の木々や花が植えられており、世田谷の中心部にもこんなに自然豊かな場所があったのかと改めて思います。



『豪徳寺』は江戸時代初期、彦根藩主の井伊直孝が井伊家の菩提寺として再興した曹洞宗のお寺です。桜田門外の変で歴史上に名を残した井伊直弼の墓もあり、都の指定史跡となっています。



ある日、井伊直孝が鷹狩りに出た折、このお寺の門前で猫にしきりに手招きされ、寺内に入ったところ空模様急変、激しい雷雨となって落雷の難を逃れたとのエピソードがあります。このことから『招き猫』の伝説が始まったと言われています。

お寺の中にはこの猫を祀(まつ)る『招猫殿』が建てられ、多くの人が参拝に訪れています。境内には願いが叶(かな)ったお礼として奉納された招き猫が、所狭しと並べられていました。



ちなみに、豪徳寺の近くを走る世田谷線に『幸福の招き猫電車』が走っているのをご存じですか。車体全体に招き猫が描かれ、まるで猫が走っているかのようです。車内の床面には猫の足跡が、また招き猫型の吊り革も配されており、カメラマンの格好のモデルとなっています。

まちかどコーナー ~なんだろう、これは?~

その4 道ばたの馬頭観音



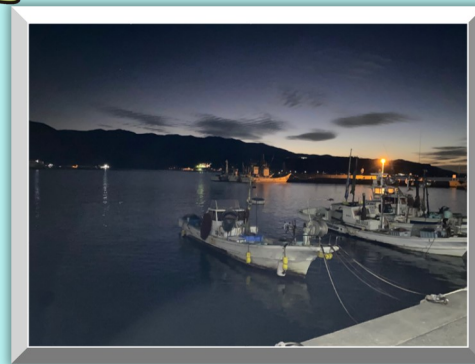
▲道路を歩いていると突如現れるので、気になった方もいるのではないのでしょうか?

今回は駒沢2丁目4番にある馬頭観音についてご紹介いたします。現在、馬頭観音を管理している横溝さんに編集委員がお話を伺いました。国道246号線沿いの現在30階建てのビルがある場所に昔は竹屋さんがあり、その前の道路に馬頭観音がありました。横溝さんの曾祖父の頃(江戸期)は、大横溝(現 国道246号線)を旅する人が多く、連れていた馬が死んだ時の供養にと建てられたらしい、とのお話でした。ちなみに、中の塔身部には文化13年(1816年)と刻まれているのが読み取れます。その後、道路拡張のため、横溝さんの祖父が現在の場所に移したという事です。平成26年には、お社が新しくなり現在に至っています。旅人を守ってくれる観音様でもあり、今現在そこを通る人が静かに手をあわせている姿を、よく見かけます。

気楽にパチリ



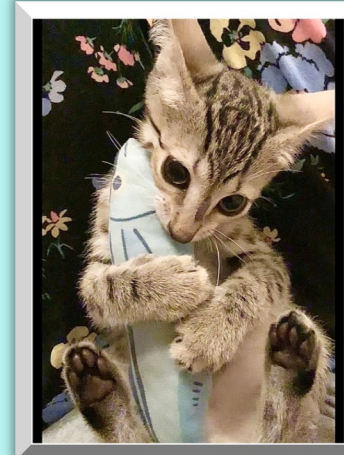
皆さんから風景、人物、ペットなど自由なテーマで写真を募集しました!



せいひつ
「静謐」

(多田優利さん)

昼間は活気がある漁港。夜が訪れ静かになると、独特のノスタルジックさを感じます。



さんま
「僕の秋刀魚」

(りずむまおさん)

か 噛んでも噛んでも味がしない。か 魚が噛まれたがってるだけだもん。



「えんむすび花帯」

(久島士郎さん)

よ 「縁結びの木」に願いを書いた花帯を結んで吉き縁を願っています。

応募方法

次回より写真のテーマを設けます！
次回のテーマは「世田谷の風景」です！

二次元コードを読み込むと表示される「13ひろば」のLINE公式アカウントに、写真とともに①氏名(ご希望の方はペンネームを併記)②住所③電話番号④作品タイトル⑤作品への一言コメントをお送りください。

※現物写真での応募をご希望の方は、上馬まちづくりセンターの窓口までお持ちください。



防災士からのおはなし その4 (上馬まちづくりセンター 所長 村上 陽一)

皆さん、災害対策の備蓄は進めていますか？
大災害が発生すると、電気・ガス・水道などのライフラインが長期間使えない場合があります。
特に重要な備蓄品は、一人一日3リットル必要とされる水と簡易トイレです。トイレと聞くと意外に思いかもかもしれませんが、水洗トイレは断水すると使用できなくなります。
一人一日5回として3人家族の10日分で150個の簡易トイレが必要となります。
簡易トイレは便袋と便を固めて消臭・消毒するための凝固剤でワンセットになっています。
災害時にトイレを我慢して体調を崩すケースは多いです。また災害の規模により上下水道が復旧する時期は予測できません。
ぜひ、今のうちに備蓄について考えてみましょう。



▲簡易トイレはかなりコンパクト。写真は便器の代わりに段ボール箱を使用しています。



▲凝固剤を加えることで、水分が固まります。